

議会だより



自然いっぱいの「中央っ子の森」で学習する子どもたち

主な内容

町長の行政報告（産業の動向について）	2
議案の審議と結果（補正予算 他）	3～4
町民のご意見について	3
広域連合（廃棄物処理）・一部事務組合（消防・葬祭）議会報告	4
決算審査特別委員会/討論・採決	5
一般質問 6 議員	6～14
議会のうごき（町内行政視察 他）	15

シリーズ

●輝け！学校「別海中央小学校」	16
-----------------	----

12月 定例議会 臨時議会

第4回定例議会が12月12日から3日間の日程で、また、第5回臨時議会が12月27日に開かれました。



チーズ増産にむけ町内でも新工場の建設が進められている

定例議会 町長の行政報告

産業の動向

《酪農・畜産》

生産者団体による三年間にわたる減産計画を八月に急ぎよ増産に変更し、来年度計画生産目標を一〇三%とする増産奨励に切り変わりました。

その要因としてチーズ向け生乳の三十五万トの拡大、豪州の干ばつによる減産、EUの生産基盤の衰退による生産減などがあります。

その反面、東欧、ロシア、アジア諸国、インドなどの需要拡大が著しく、国際乳製品価格が高騰し、バター・脱脂粉乳の在庫が大幅に減少しました。

国内的には減産計画による乳牛の淘汰、配合飼料の高騰による給与量の減少などで、今年度生産目標の一〇二%の達成は困

難な状況で、一〇一%程度の生産にとどまる模様です。

当町は乳牛の保留対策など生産者の努力が実り、十月以降は二%強の伸びを示し、生乳生産量は十月末で三十八万三千四百トとなっています。

乳価は七十一円四十銭で昨年に比べて一円高ですが、配合飼料が五万四千円台で前年比二四%増と高騰、原油価格高騰による生産資材の高騰で経営の急激な悪化が懸念されます。

さらに初妊牛、ヌレシ、F1と販売牛のトリプル安も経営の悪化に拍車をかける要因となり、農家の自己資金が大幅に減少していることから、経営資金に不足を来す状況が予想されます。

生産者団体はメーカーとの期中の乳価取引価格の改善を求め、来年度については、キ口六円の値上げを要求しています。

これらの酪農を取り巻く厳しい状況から当町も議会などの協力を得て、十二月三日に独自の緊急中央要請を行いました。

《水産業》

今年の秋サケ漁の数量は一万七千ト、一五%、金額は三十六億二千三百万円(一二%)で高水準な水揚げとなっています。

ホタテも春漁が順調で二万二千二百八十九ト(一三%)、四十五億七千万円(一二三%)となり、十二月から始まったホタテ漁、その他の漁種の水揚げも期待しています。

《商工業》

近隣町の大型店の進出による購買力の流出は相変わらず続いており、依然として厳しい状況が続いています。

《観光客の入り込み状況》

当町は上半期(四、九、月)、前年同期に比べ二三・八%減の二十六万八千人です。

根室管内でも七年ぶりに二百万人を割り込み、百八十六万人(八・一%減)となりました。

今後、近隣町と連携して誘致宣伝の積極的な展開をしたいと考えています。



水揚げ額が前年比120%をこえたホタテ春漁。冬漁も期待がかかる

議案の審議と結果

12月に行われた定例議会と臨時議会では補正予算や条例改正などについて審議されました。審議・決定した事項は次のとおりです。



連絡事務所に変わっても地域コミュニティの中心、上風連出張所
(上の写真は昭和20年代の上風連初代出張所)

条例を一部 改めました

◆**支所、出張所設置条例**
上春別および上風連出張所を連絡事務所にするに伴い、出張所の項を削りました。

◆**町職員の給与に関する条例**
人事院勧告に準じて扶養手当・勤勉手当、若年層の給与改定などを行いました。

◆**町立保育園設置条例**
別海保育園の入園児童数を六十五人から七十人に改めました。

◆**町立へき地保育園条例**
二年間休園していた光進へき地保育園を閉園することになりました。

漁港埋立て 出願意見の答申 を認めました

尾岱沼漁港施設用地として公有水面埋立に関する

る意見を認めました。
面積は一八三四・五二平方メートルです。

工事請負契約の 締結をしました

◆**西春別中西別線改良舗装工事**
簡易公募型指名競争入札で高玉建設工業株式会社が落札しました。
契約金額は六千二百二十六万五千円で、工期は平成十九年十二月十三日から平成二十年九月三十

日です。

教育委員の任命 に同意しました

◆**任期満了に伴い、現委員長である今西和雄さん(中西別)の再任に同意しました。**



今西 和雄さん

平成19年度補正予算

補正額	予算総額
◇一般会計(3回目の補正) 2億7,820万円 減	145億4,740万円
◇下水道事業特別会計(1回目の補正) 1,440万円 減	7億3,190万円
◇介護サービス事業特別会計(1回目の補正) 1,268万円 減	8億2,962万円
◇病院事業会計(1回目の補正) 1,421万円 増	19億8,382万円
◇水道事業会計(1回目の補正) 981万円 減	9億3,407万円

一般会計の主な補正

- ・畜産担い手育成総合整備事業(再編整備型) 1億7,650万円を減額
- ・衛生管理型清浄海水導入事業 2,000万円を増額
- ・ガス灯設置事業 380万円を減額
- ・人件費 4,000万円を減額
- ・各施設燃料費不足分 1,228万円を増額

病院事業会計の主な補正

- ・給与費、医師手当など 1,696万円を増額

町民の方からいただいたご意見について

11月、町民の方から「町広報誌と議会だよりの内容が重複している」とのご指摘とご意見をいただきました。それに対する私たちの考えについては『広報べつかい』1月号P13に掲載していますので、ごらんいただければと思います。

福祉灯油の実施が 決まりました

臨時議会（12月27日）

町長から福祉灯油実施のための補正予算（五百七十万円）が提案され、全員の賛成で可決されました。

町民税・道民税非課税で六十五歳以上の老人世帯、十八歳未満の子どもがいる一人親世帯、二級以上の障害者がいる世帯が対象となります。（生活保護世帯は除かれ

ます）
扶助額は、一世帯あたり一万円です。

ただし、自動的に支給されるわけではなく、本人の申請がなければ支給されません。

詳しくは役場福祉部にお問い合わせください。

廃棄物広域連合議会などが 開かれました

十二月七日に中標津町議会場で、一部事務組合議会、および広域連合議会の定例議会が開催されました。

今回は主に平成十八年度一般会計決算について審議が行われ、承認・議決されました。



平成19年度から本格稼働が始まった根室北部一般廃棄物広域連合

中標津町外二町葬祭組合 一般会計決算	(歳入) 5,702万円	(歳出) 5,702万円
根室北部消防事務組合 一般会計決算	(歳入)14億 897万円	(歳出)14億 897万円
根室北部一般廃棄物処理広域連合 一般会計決算	(歳入)15億4,507万円	(歳出)15億3,900万円

国・道に要望書を 提出しました

◆地域間格差の解消を求 める意見書

提出者 総務建設常任委員会
委員長 池田 幸雄 議員

「三位一体改革が進められた結果、都市と地方の地域間格差が拡大している。地域の財政状況の改善と地域の特性を生かした施策の実施を求める」とする意見書が提出され、全員の賛成で可決されました。

◆農地・水・環境保全向 上対策に関する意見書

提出者 産業常任委員会
委員長 戸田 憲悦 議員

「農業が持つている多面的機能や自然循環機能を維持・増進するため、地方公共団体への財政措置の拡大強化と事務処理の一層の改善を求める」とする意見書が提出され、全員の賛成で可決されました。

◆後期高齢者医療制度に 関する意見書

提出者 文教厚生常任委員会
委員長 安部 政博 議員

「四月に創設される後期高齢者医療制度について、高齢者や低所得者に負担とならないよう生活実態に十分配慮し、安心して医療が受けられる制度の確立を求める」とする意見書が提出され、全員の賛成で可決されました。

◆灯油等石油製品価格の 引き下げを求める意見 書

提出者 産業常任委員会
委員長 戸田 憲悦 議員

「灯油価格の高騰は家計を直撃し、極めて深刻な事態が予測される。緊急措置として、住民が安心して生活できるように石油製品の価格引き下げを求める」とする意見書が提出され、全員の賛成で可決されました。

◆道路整備に係る財源確 保を求める意見書

提出者 議会運営委員会
委員長 佐々木春男 議員

「道路特定財源の見直し論議の中、安定的で確実な道路整備財源を確保するため、地方道路整備臨時交付金制度の継続を求める」とする意見書が緊急的に提出され、審議の結果、賛成多数で可決されました。

決算審査特別委員会報告

平成18年度 各会計決算を認定

12月定例議会は、決算審査特別委員会(福原春夫委員長)の報告を受け討論・採決を行い、一般会計については賛成多数、ほか5特別会計・2公営企業会計については全会一致で認定しました。

決算審査特別 委員会の報告(概要)

今回は、事前に質問を取りまとめるなど、効率化を図り慎重に審査しました。十一月十三日に理事者の出席を求め指摘した概要を報告します。

①一般会計は、実質収支で九千三百五十一万二

千円の黒字決算となっているが、財政指標は依然として硬化を示しています。徹底した支出の削減、費用対効果の検証などに一層努めるべきです。

②町税などの収納対策は、きめ細かな対応で滞納繰越解消に努める必要があ

平成18年度各会計決算

	歳入	歳出
一般会計	142億3,430万円	141億4,068万円
国民健康保険特別会計	23億305万円	23億5,038万円
老人保健特別会計	13億6,870万円	13億6,870万円
下水道事業特別会計	6億8,849万円	6億8,805万円
介護サービス事業特別会計	8億929万円	8億911万円
介護保険特別会計	8億5,480万円	8億1,675万円
町立別海病院事業会計	16億2,047万円	16億7,289万円
水道事業会計	6億5,689万円	5億4,512万円

(1)公団事業にかかわって総額で約十三億円の損失を町財政から補てんしています。(2)第三セクターの経理が不明瞭です。(3)矢日別演習場内の砂防ダム建設は効果の検証が必要です。(4)国民保護計画製作事業は災害時

反対意見 (中村議員)

一般会計決算に対する討論

ります。③不納欠損処分は、生活困窮者や居所不明者などやむを得ない者に限定するなど慎重に対応すべきです。④第三セクターを含んだ補助金の執行は、経営方法の再考や転換を図るなど、抜本的かつダイナミックな経営改善を行うなどの対策が必要です。

上げの要望⑧病院事業会計では、累積欠損金八億八千万円となり、今後より効率的な病院経営の推進と収益向上対策、魅力ある病院づくりに努めること。以上の点を委員



さらに「地産地消」の推進が求められる学校給食

自主財源の少ない中で、積極的な行政改革に

賛成意見 (戸田博義議員)

の国民・住民の保護ではなく、「有事」における軍事行動を前提とした法律に基づく事業です。以上の点を指摘して認定に反対します。

取り組み、九千三百万円余の黒字決算となったことは健全な財政運営の結果です。今後景気回復への不透明感が強く、厳しい財政状況が予想されますが、町民のニーズに応える効率的かつ、将来にわたる健全な財政運営を期待しながら認定に賛成します。

会として指摘しました。

一般質問

町政の ここが聞きたい

12月定例議会では第2日目(12月13日)に6議員が一般質問をしました。その内容を要約して掲載します。

■松原政勝 議員

- 1 前町長への名誉町民の称号を贈る諮問について…6

■佐藤初雄 議員

- 1 国営環境保全型かんがい排水事業の全体像は…7
- 2 休農の実態と今後の対応策は…7
- 3 消防本部の今後の体制は…8
- 4 別海高校生の就職状況と町の支援体制は…8
- 5 監査体制の充実強化が必要では…9
- 6 福祉灯油復活について…9

■瀧川榮子 議員

- 1 福祉灯油復活について…9
- 2 妊婦健診の公費負担拡大を年度内に…10
- 3 高齢者に配慮した投票場を…10

■西原 浩 議員

- 1 中山間事業を活用した環境対策の推進を…11

■中村忠士 議員

- 1 バイオマス事業の見通しをしっかりと…12
- 2 嘱託・臨時職員の有給休暇日数の改善を…12
- 3 より積極的な情報公開を…13
- 4 自衛隊による町道封鎖は大きな問題…13

■丹羽勝夫 議員

- 1 乳業興社の経理を明確に…14

前町長への名誉町民の 称号を贈る諮問について

町長 他にも相応の人がいるか合わせて

検討する必要があると考えています

松原政勝議員

質問

前町長は昭和六十二年から二十年間にわたり町長を務め、その間、各種団体の役員を数多く歴任されました。

豊かで活力のあるまちづくりを目指して町発展に寄与し、産業の振興、町民の福祉、教育・文化の発展に貢献されました。これらの実現に当っては将来展望に立ち、町民の理解と協力を得て積極的に取り組んできました。町行政の充実に寄与された功績をたたえ、前町長に対して「名誉町民条例」に基づき、名誉町民の称号を贈ることが必要と思われる。町長の考えをうかがいます。

水沼町長

前町長佐野力三氏は、三十六年間町職員として務められ、昭和六十二年に町長として初当選以来二十年間豊富な経験と確固たる信念に基づいて行政を執行してきました。特に産業基盤や生活環境の整備、福祉・教育・文化の向上など、町の発展に尽くされた功績は大きなものと敬意を表しています。

名誉町民の選定については、町の発展に功績があった町民が対象になっており、他にも相応の人がいるかどうかも含めて検討する必要があると考えています。

現在のところ、町民の中に表彰の人選についてさまざまな声があります。多くの町民の意見や考

質問

前町長が勇退されて既に八か月が経過しました。平成十九年度中に表彰審議委員会に諮問ができませんか検討願います。

水沼町長

十分考慮に入れ、それぞれの町民皆さんの意見を聞きながら、これから判断します。

国営環境保全型かんがい排水事業の全体像は

産業振興部長 環境保全型農業を

推進していくための事業です

佐藤初雄議員

質問

本事業は、平成十一年に環境保全型農業農村基本計画が策定され導入されました。

事業展開、各四地区の受益面積、戸数、総事業費、事業内容、事業初年度・終了年度、負担割合、償還条件、利率、施設の維持管理費をお知らせください。

秋森産業振興部長

事業費の負担割合は、国八〇%、道一五%、町および農家五%となっております。

償還条件は、償還利率が五%で、二年据え置きの十五年償還です。

町が維持管理をしています。末端かんがい

施設については、肥培施設を使用する方が維持管理をしていきます。

質問

当町の家庭用、営業用の水道料金の全道での順位、また、補助事業がなかった場合の料金についてお聞きします。

川原建設水道部長

家庭用は、九十九団体系中安い順から六十二番目に位置しています。

営業用は、全道の中で中間ぐらいに位置しています。

補助事業がなかった場合は、二・五倍から三倍の値上げが必要と思われるが、料金値上げは考えていません。

休農の実態と今後の対応策は

町長 後継者、新規就農 対策に努力します

佐藤初雄議員

質問

生乳減産計画に加え、

原油高騰による飼料・生産資材の高騰など、基幹産業が大変です。

最盛期に比べると、農家戸数は三分の一の九百戸、人口も約二五%減の一万余人です。

過去五年間の休農・離農の年次別推移と、その要因、また、組織の赤字総額と戸数推移をお知らせください。

秋森産業振興部長

別表のとおりです。

質問

個々の経営努力の限界を超えている状況下、再生産可能な乳価・畜産物価格の確保、経営健全化に向けた支援と関連対策の充実に向け、町独自対策、また、国・道へ強力な要請活動を展開する必要があります。

水沼町長

酪農は当町の基幹産業で、安定的発展は究極の課題です。後継者・新規就農対策に努力していきます。

■過去5年間の休農・離農戸数の推移

年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
戸数	15戸	24戸	26戸	23戸	17戸	
要因別戸数	後継者不足	4戸	5戸	7戸	3戸	4戸
	営農不振	2戸	6戸	4戸	4戸	7戸
	病気・事故・将来不安	9戸	13戸	15戸	16戸	6戸
規模	①搾乳頭数49頭以下 59戸		②51頭～99頭 41戸		③100頭以上 5戸	
総額	10.14億円	10.80億円	12.94億円	15.40億円	18.50億円	
組数	350戸	360戸	381戸	387戸	405戸	

輸入穀物依存型からの脱却を図るために、飼料自給率向上、酪農飼料基盤拡大事業の推進、環境維持型・資源循環型酪農の確立、負債対策などを国・道に要請します。

さらに、農業に対する国民の理解・支援が不可欠ですので、あらゆる機会ですべて訴えていきます。

消防本部の今後の体制は

町長 慎重に協議検討していきます

佐藤初雄議員

質問

道は、六十八の消防本部を二十一に集約する消防広域化推進計画素案をまとめました。

過去五年間の町の消防車・救急車の出動件数と主要因、借入金残高と年間の元利償還額を知らせてください。

国、道の再編整備計画に対する根室北部消防事務組合の今後の体制について、町としての対応をどのように考えていますか。

■ 5年間の消防車・救急車出動件数

消防車		救急車	
件数	70件	件数	2,480件
建物火災	49%	急病	49%
車輛火災	26%	転院搬送	17%
その他	25%	交通事故	16%
		その他	18%

■ 平成18年度末の借入残高・年間償還額

	残高	償還額
元金	9億1,709万円	3,589万円
利子	1億8,310万円	1,717万円
計	11億 19万円	5,306万円

水沼町長

道の素案では、根室圏として根室北部事務組合と根室市との統合、さらに根室、釧路圏との広域

化の構想です。

この広い地域でどの程度効率的、効果的な運用を図ることができるかを慎重に協議検討していきます。

飯島総務部長

別表のとおりです。

別海高校生の就職状況と町の支援体制は

産業振興部長

雇用促進に努力します

佐藤初雄議員

質問

来春卒業予定者数、就職希望者数、内定者数、町内企業の職種別求人数をお知らせください。

また、企業の育成、新産業創設などでの雇用創出、企業誘致制度の活用、役場での採用、農漁協、商工業者などとの連携と就職活動に対する町の対応はどのようになっていきますか。

秋森産業振興部長

高校では、町・商店・企業・団体の協力のもと普通科二年生、酪農科三

■ 町内企業就職希望者内訳

	男	女
希望者	17人	9人
内定	13人	7人

■ 町内企業求人内訳

職種	求人企業	人数
一般事務	5社	15人
製造業	4社	8人
サービス業	1社	1人
その他業	1社	1人
計	11社	25人

年生を対象に毎年職場体験学習事業を実施しています。平成十八年度四十人、十九年度七十人が学習しました。

今後全面的に協力していきますが、受け入れ企業、事業などの確保、啓発活動など商工会とも

連携し実施します。また、毎年目標津町で行っている企業合同説明会への参加支援、雇用促進に努力します。

就職希望者の大半が地元で就職できるよう、企業の理解・協力を得ながら努力していきます。

福祉灯油復活は 緊急課題です

2氏が質問

町長 年度内に実施します

佐藤初雄議員

質問

毎月のように石油価格の高騰が続き、これから冬期間を迎え、多方面にわたり影響が出てきます。

当町の独自対策として、障害者・一人親家庭・高齢者・生活保護世帯・生活弱者・低所得者などへの対策を聞かせてください。

水沼町長

灯油は寒冷地の生活必需品で、生活におよぼす影響は非常に大きいと承知しています。

当町では灯油価格の安定で、平成十四年度から福祉灯油購入補助を廃止した経過があります。

道の補助制度を活用した場合、当町では約六百世帯が対象になると見込んでいます。

補助金額を含めて早急に内容を検討し、平成十九年度内に実施します。

瀧川榮子議員

質問

町では燃料代高騰により、十二月に燃料代を総額千二百二十七万円補正しました。

こうした状況の中、市町村の福祉灯油制度に対して、道は補助事業の利用条件緩和を発表しました。

以前あった福祉灯油の復活は緊急課題と考えますが、今後の対応をお聞かせください。

監査体制の充実 強化が必要では

町長 他にも重要課題があり検討します

が、監査委員の学識経験者の常勤体制と監査機能体制の充実強化が必要です。町長のマニフェストにもあり、考えをお聞きします。

水沼町長

監査委員の定数は、昨年の自治法の改正により条例で増員できるようにになりました。

公正の確保と透明性の向上を図ることが一層重要になり、外部監査制度の有効活用もできます。

私の公約でもありますが、行財政・機構改革も重要課題ですので、これらのことも十分に考慮し検討します。

佐藤初雄議員

質問

行財政改革の中です

水沼町長

道の生活支援事業として、灯油の購入に対する補助制度があります。当町の人口規模では補助基準額は百二十万円でその二分の一が補助金です。道の補助では到底足り

ないと思います。

灯油が百円を越えているという状況を見て、どのくらいの助成が必要か早急に内容を検討し、平成十九年度内に実施したいと考えています。



ガソリン・灯油などの急騰が家計を直撃している

妊婦健診の公費負担 拡大を年度内に

町長 平成二十年度から実施します

瀧川榮子議員

質問

出産適齢期の家庭は若い世代であり、妊婦健診は保険適用外で、経済的負担となっています。

厚生労働省は「妊婦健診の公費負担は五回程度が望ましい」としました。当町の取組みをお聞かせください。

堀込福祉部長

妊婦健診の重要性が高まり、少子化対策の一環として健診費用の軽減が求められています。

自治体の公費負担の充実を積極的に取り組むよう周知がありました。最低限必要な妊婦健診の回数として、平成二十年度から五回程度の公費負担を考えています。

質問
体調を崩して入院し、職場を離れなくてはなら

ないなど負担は多くなります。今年度から実施する考えはありませんか。

水沼町長
国保会計は赤字で厳しい状況にあるので、平成二十年度からと考えています。

質問
すべての妊婦健診を無料にする自治体もあります。来年度からの実施で

あれば、健診回数の拡大ができませんか。
水沼町長
回数を増やした場合、どの程度の予算措置が必要になるのか検討はします。

高齢者に配慮した投票場を

総務部長 利便性の向上を検討します



玄関が狭いため靴のはきかえが大変な投票所改善を要望する声がある

瀧川榮子議員

質問

当町には多くの投票所がありますが、狭いところでの靴のはきかえが危なく、選挙に行きたくないという声まで聞かれます。

改善の必要な投票所があると考えますが。

中野選管書記次長

二十一か所の投票所の投票管理者からは、選挙

民から玄関が狭いなどの指摘はないと報告を受けています。
シートなど敷いても、冬期間の選挙になると滑って転倒など危険性も考えられます。
質問の投票所は少年会館と思われませんが、どのような方法が良いのか十分検討したいと思います。

質問

年齢別投票率データでは、六十代から七十代後半の投票率が高く、病気を持つ人にとっては厳しい状況です。障害者で靴も着脱しにくいものをはいている方もいます。靴のはきかえをしなくて

中山間事業を活用した 環境対策の推進を 産業振興部長 より広範囲な事業に 取り組みます

西原 浩議員

質問

平成十七年度からスタートした第二次中山間事業も本年度を含め残り三年となりました。
町集落のこれまでの取り組みと今後の計画についておたずねします。

秋森産業振興部長

全町集落としては、福祉牛乳の支給事業、牛乳の消費拡大事業、酪農ヘルパー事業の推進、酪農研修牧場育成事業、雑排水処理整備事業、家畜ふん尿集積施設の整備、乳用牛群総合改良推進事業などに取り組んでいます。
今後は、河畔林の植林、乳温計の設置事業、家畜防疫事業、臭気対策事業などの広範囲な事業に取り

り組んでいきます。

質問

家畜排せつ物法が平成十六年度に施行され、今後は牛舎から出る雑排水が環境問題に大きくかわってくると思いますが、今後の取組みについてお聞きします。

秋森産業振興部長

平成十八年度は、富岡地区十一戸共同で搾乳排水処理システム構築に向けたモデル事業を実施しました。
平成十九年度からは、個別処理施設への助成事業を農協と協同で実施します。
すでに取り組んでいる集落もあるので、今後調整が必要になると考えています。

なお、雑排水の整備状況ですが、現在全町で五十三戸整備しています。

質問

家畜ふん尿の臭気対策事業の整備計画についてお聞きします。

秋森産業振興部長

平成十九年度から二十一年度までの三か年事業として、町内市街地周辺を中心に、別海市街は四^キ圈内、そのほかの市街地については二^キ圈内の農家で実証試験を実施しています。

質問

どこで何軒実施していますか。

秋森産業振興部長

別海市街七戸、中春別



すでに取り組んでいる活性汚泥法による雑排水処理施設

飯島総務部長

足の不自由な方、高齢

いいよう、たくさんの方が投票し、自分たちの権利を行使できるような方向性をとってください。

の方には不便をかけている部分もあり、改善する必要がありますかと思えます。薄いじゅうたんを敷くなど利便性の向上を検討します。

市街八戸、西春別二戸、上春別三戸、計根別市街二戸の合計二十二戸の実証データを取り、普及セ

ンターの協力を得て、消臭効果・費用効果を分析中です。

バイオマス事業の見通しをしっかりと

産業振興部長 技術的確立できた時点で推進

中村忠士議員

質問

バイオマスエネルギーやバイオガスの利活用について全面否定するものではありませんが、財政的バランスを考え、将来見通しをしっかりと立てることが必要です。

町が策定した「バイオマスタウン構想」にある「酪農サポート事業」などには



バイオガス燃料車の試運転でガスの充填をする

どのくらいの経費がかかりますか。

秋森産業振興部長

「酪農サポート事業」は、百戸・一万二千頭分の個別型および共同型のバイオマスプラントの構想です。

事業費は概ね五十三億円です。

質問

バイオマスタウン構想の一方で、国営環境保全型かんがい排水事業の展開が予定されています。

バイオマス構想は嫌気性発酵、国営かん排は好気性発酵システムがとられています。国営かん排の好気性発酵システムを嫌気性発酵に切り替えるのは、開発建設部の説明では「非常に難しい」ということです。

国営かん排事業は水を

使う事業ですが、バイオガスの嫌気性発酵は水を使うと効率が悪くなり、開発建設部は、バイオマスプラント構築については「今のところかん排事業でやれる状況ではない」と言っています。

こうした二つの事業が整合性がとられないまま同時並行的に進められるのは大きな問題です。

秋森産業振興部長

かん排事業の中できちんと嫌気性発酵ができるという技術的な確立ができた時点でバイオマス事業を進めていきます。

まだ確立されていない事業に取り組んでいるという状況ですので、計画どおりに進んでいないという実態もあります。ただ、技術的には着実に前進していることはまちがいありません。

質問

中西別のバイオガスプラントの見通しは？

秋森産業振興部長

平成二十二年まで共同研究を継続します。今後の運営のあり方について早急に結論を出します。

嘱託・臨時職員の有給休暇日数の改善を

総務部長 嘱託職員は改善します

託職員は一年間に十四日以内となっており、何年勤務してもそれ以上にはなりません。同じ仕事をしている労働者の間に格差が生じています。是正するべきです。

飯島総務部長

労働基準法では、六か月の継続勤務の場合年間十日間の有給休暇の付与となっています。

臨時職員は任期を一年に限定しています。年間で十二日間有給を付与していますので、労働基準法を上回っています。

嘱託職員は任用期間が一年ですが、必要な場合は自動的に任用期間を更新してきますので、労働基準法に抵触しないよう継続任用期間をもとに最大二十日まで付与できるよう改善します。

質問

中村忠士議員

労働基準法では、継続勤務日数によって最大二十日間の有給休暇がとれることになっています。

当町の場合、臨時職員は六か月に六日以内、嘱

より積極的な情報公開を

総務部長 内部でルールづくりをしています

中村忠士議員

質問

個人情報を除いて、教育委員会や農業委員会、審議会などの全面的公開をすべきです。

三年前にも同じ質問をし、その時、議会や教育委員会、農業委員会の議事録も準備ができた第公開していくとの答弁がありました。

しかし、三年間たつての進み具合としてはどうかと思つています。できるところから具体的に手をつけていくべきです。

飯島総務部長

言われたとおりです。

「農業委員会や教育委員会でこういう内容の論議をしました」だけでもいいから、お知らせできるようにしたいと思いません。

その際のルールを今、内部で打ち合わせています。

質問

町民の皆さんが知りたいたいのには、例えば、福祉でどんなサービスが受けられるのかとか、道路整備の計画がどうなっているかなどです。そういう制度解説や具体的計画の開示も進めていく必要があります。

飯島総務部長

町の計画や制度改正などについて町民に知らせ、意見を聞くという「パブリックコメント制度」の仕組みが必要と考え、今後検討していきます。

質問

町のホームページ「べつつかいTV」は、調べづ

らい、見づらいという意見を耳にします。八百四十五万円ほどの

経費をかけてポータルサイトを立ち上げたわけですから、そのお金がむだなものにならないよう鋭意努力をしていただきたいと思います。

飯島総務部長

「べつつかいTV」につ

いて町民のみなさんからもいろいろ意見をいただいています。大変ご不便をかけています。行政情報の検索を容易にするための作業を進めています。年内には役場のページの変更を終えるように努力しています。

自衛隊による町道封鎖は大きな問題

総務部長 自衛隊から謝罪がありました

中村忠士議員

質問

十月十九日、矢白別の川瀬牧場に向かっていた町民が、町道と風連道との交差点で自衛隊によって通行止めを受けました。

大変遺憾なことです。過去にも連絡ミス的なことから生じた事件がありました。単に連絡ミスというだけでは済まない問題です。

飯島総務部長

町に対して事前の連絡はありませんでした。

通行止めにあつた町民からの連絡後、駐屯地に現地確認を指示したところ、早急にロープを撤去し、町民の方に謝罪したという報告がありました。

十一月十五日に、駐屯地から町に対して説明と謝罪がありました。

質問

訓練部隊の責任者の謝罪もきちんと明文化されるべきです。

また、謝罪文を町民に公開すべきです。

飯島総務部長
検討します。



封鎖が問題となった矢白別演習場内の町道

乳業興社の経理を明確に

町長 誤解のないよう是正します

丹羽勝夫議員

質問

農漁村加工体験施設・乳加工体験施設が、平成十八年度から乳業興社を指定管理者として運営されていますが、はっきりした区分もなく、受託料

が乳業興社の売り上げに計上されています。自然と思いますが。

定科目は営業内、営業外どちらでもかまわないということですか。

秋森産業振興部長

会計事務所に確認したところ、会社の定款で管理業務委託を行うことについて定めていけば、勘

質問

指定管理者制度の責任の区分などを明確に取り決めた協定書がありますか。

秋森産業振興部長

管理委託業務内容、委託料などの基本的事項について協定書を取り交わしています。

質問

自治体の所有の建物に指定管理者である乳業興社が、自己資金で設備投資をしています。町との合意はありましたか。

また、資産計上、減価償却はどうなっていますか。

秋森産業振興部長

協定書では町の了解を得れば資産取得はかまわないことになっています。当然興社の資産となり減価償却も興社の経理で行っています。

質問

町として施設が戻された時、どのように扱われますか。

秋森産業振興部長

契約が切れた場合、当然設備は撤去し、原状回復してもらいます。

質問

中山間事業の乳製品消費拡大事業について、指定管理者と取り決めがありますか。

秋森産業振興部長

乳業興社と全町集落との協定書はありません。

質問

協定書もない中で、乳業興社で行う乳製品消費拡大のサンプル代、旅費交通費が中山間事業の全

町集落から支払われているませんか。

秋森産業振興部長

中山間事業では、消費拡大に関わって具体的な内容を取り決めています。その中で、全町集落へあらかじめ申請をすれば牛乳の消費拡大事業の対象となり、それに関わる経費が全町集落から支払われます。

水沼町長

中山間事業にのっとって、消費拡大事業も興社でやっていることから、中山間事業の予算で興社が営業をしているような誤解を招くこともありま

す。このような誤解を招かないよう、これから興社の運営については正しくよく検討させようと考えています。



パンづくりなど町民の皆さんに利用されている加工体験施設

議会のうごき

道町村議会議長会の勢
 旗了三事務局長を講師に
 研修が行われました。
 演題は「議会運営の諸
 課題と議会改革」です。
 北海道の町村議会の現
 状を示しながら、町村議
 会のおかれている立場や
 住民との共同など、議会
 人としてあるべき姿が述

べられました。
 地方議会、とりわけ町
 村議会議員へのなり手が
 少ない中、町村合併も視
 野に入れながら、議会の
 環境整備が必要であると
 感じました。
 本議会・常任委員会・
 議員協議会のあり方、一
 般質問の手法などについ

ても考えさせられました。
 町民から負託を受けた
 議員として議会活性化を
 図りながら、将来を見据
 えた町村議会でありたい
 し、そういう方向に進ま
 なければならぬと感じ
 る研修会でした。
 (松原委員)

管内議員研修会

中標津町 (11月1日)



障害児・障害者のサポート体制を築いた「太陽の園」責任者の講話を聞く

道内行政視察研修

福島町ほか(10月2日～5日)

地方議会が町民の声を反映させ、住民に還元することが求められています。その先進的な取組みを視察してきました。

福島町議会では、平成11年度から「開かれた議会づくり」を目指し、さまざまな取組みを行っています。住民参加の関心を高めるために各種懇談会を開催。今年度からは「議会・議員の評価」を行い、ホームページで公開しています。

壮警町議会では平成12年の有珠山噴火からの災害復興を目的に、洞爺湖周辺エコミュージアム構想による農山漁村地域振興を掲げています。

また、伊達市では知的障害児・障害者の総合援護施設「太陽の園」を視察。近隣の親子への支援をするという観点から「発達援護センター」を開設しています。

各視察地で意見交換を行い、今後の取組みや課題などを確認しました。これからの議会活動の参考となる研修でした。
 (西原委員)

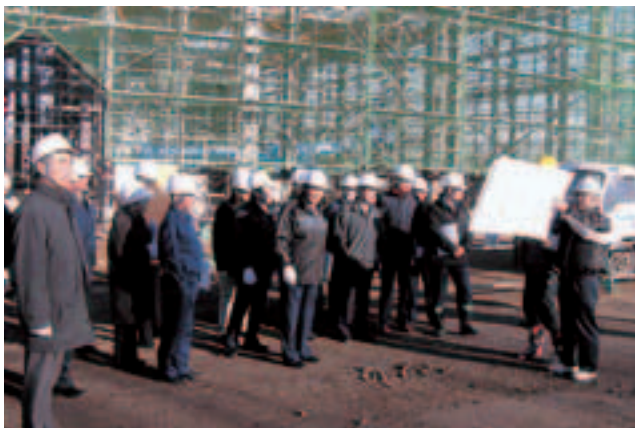
町内行政視察

(11月16日)

酪農場、バイオガス
 プラント(中西別)、野
 付半島海岸保全対策
 (ヘッドランド)、水産
 系副産物再資源化施設
 (尾岱沼)、産業廃棄
 物・リサイクル民間施設
 (平系地区II建設中)の
 視察を行いました。

「べつかいの牛乳屋さ
 ん」にはストローがつい
 ていません。ストローが
 つけばコンビ
 ニでも販売で
 きそう。それ
 には一千三百
 万円投資が
 必要とのこ
 と。

こうした課
 題をかかえな
 がらも、酪農
 工場の売上高
 は創業五年目
 で二倍の四億
 六千六百万円
 の目標を達成
 しそうです。
 バイオガス



産業廃棄物処理施設(アシスト)の建設現場を視察する

プラントも今年度ガスを
 燃料とした車の走行実験
 が成功。実用化に向けて
 前進しています。
 ヘッドランドは自然と
 人間の知恵との戦い。
 産業の発展と環境保全
 を民と官の力、まさに
 「協働のまちづくり」で一
 歩前進させたいと思った
 視察でした。
 (安部委員)

「中央っ子の森」を活用した学習の時間



全校児童による緑化事業完成式典での記念撮影

別海中央小学校

本校のグラウンドに隣接して西別川の河川敷に森があります。人の手があり加わっていない自然林で、四季折々の豊かな姿を見せてくれています。「中央っ子の森」と名づけて整備が始まり、生活科や理科の学習で森は

活用されてきました。

一昨年、地域有志の方から「クワガタ採りのできる環境を！」などの話があり、「中央っ子の森」に幼虫や成虫を放してのクワガタ再生の取り組みがスタートしました。

他の団体からホタルの幼虫と飼育装置の寄贈も受け、古川でのホタル再生の夢も広がっています。

観察道の延長やクワガタのためのミズナラの植樹、桜並木づくりのための植樹を行いました。

さらに、観察道沿いの樹木には、子どもたちの手で樹木名板を設置するなど学習環境の整備を進めてきました。

今年度は、ハスカップの植樹や観察道に階段を設置しました。

この「中央っ子の森」で子どもたちが学習活動で有効に活用し、クワガタやホタルで癒される場となればと願っています。

編集後記



全く穏やかな年始でした。帳尻あわせのぶり返しが出来ないかと心配ですが、穏やかに年が明けたことを素直に喜びたいと思います。

一月七日は尾岱沼の、八日は本別海の初競りでした。特に、本別海はニシンの大漁だったそうで、本当にめでたいことです。これにあやかって町民皆様にとって良い年でありますよう、心からお祈りしたいと思います。

さて、当委員会も新年八日から編集作業が始まっています。昨年十一月には町民の方から「役場広報誌と記事が重複しないように」というご意見をいただきました。ありがたいご意見として受けとめ、さらに皆様にとって役に立つ『議会だより』をめざし、決意新たにがんばってまいります。よろしくお願ひ申し上げます。(中村委員)

「オールウェイズ 三丁目の夕日」を見ました。最初は昭和三十一年代の画像が懐かしくて見始めたのですが、見ているうちにストーリーに入って最後は夫婦揃ってウルウルしてしまいました。

お隣同士がすぐ取っ組み合いの喧嘩を始めますが、それでも問題があると喧嘩したことなど忘れ助け合いをする。口は悪いが相手も思いやる本当の優しさがありました。

表だけの付き合いではなく、いつも本音で人と向い合っているからこそ、お互いのことが分かり合えるのだと思います。私たちが忘れてしまった心を改めて思い出させてくれる内容でした。

今の世の中はなかなか本音で付き合い合えるような状況ではありませぬ。駆け引きのない本音で人間同士付き合い合える世の中になれば、人間のぎすぎすした気持ちはなくなるように思います。(山田委員)

携帯電話は車を止めて！冬道はスピードダウンと車間距離